2025 年 3 月 7 日

第一工業製薬株式会社

2025 年 3 月期　新中期経営計画及び第 3 四半期決算説明会 主な質疑応答

（開催日：2025 年 2 月 27 日 場所：当社東京本社セミナールーム（リアル＆WEB 配信））

Q1：足元の機能材料セグメントの利益の傾向から鑑みると、電子・情報セグメントの計画値は保守的すぎると見受けられる。どのようなリスク要因を含んでいるのか。

A1：原材料価格の上昇といったリスク要因が顕在化しており、収益の下振れ要因を織り込んだ保守的な数値となっている。

Q2：設備投資計画において、2027 年より金額が増加しているが、具体的な案件は既に存在するのか。

A2：具体的な案件の開示はできないものの、電子・情報や環境エネルギー向けの案件、また、生産技術研究所における半導体向け評価装置などの購入を含んでいる。

Q3：電子デバイス材料およびライフサイエンス事業は赤字が継続しているが、新中期経営計画における黒字化へのロードマップを示されたい。

A3：電子デバイス材料については、太陽電池向け導電性ペーストのペロブスカイト太陽電池向け開発や関連技術の展開を推進している。ライフサイエンス事業については、受託事業の強化・拡大を進め、2027 年以降の黒字化に向けて収益性の改善を図る。

Q4：現在の時価総額では TOPIX への残留は困難と認識している。会社として検討している施策があれば教示されたい。

A4：自己株式の消却や政策保有株式の縮減など、講じ得る施策は多岐にわたるが、まずは収益力を強化し、企業としての存在感を高めることが重要であると認識している。

Q5：キャッシュアロケーションの見通しにおいて、営業キャッシュフローと手元資金の合計額が、成長投資と株主還元の合計額と一致していない。この差額は M&A 資金に充当されるのか。

A5：M&A なども検討を進めているが、まずは自社事業の強化および拡大を優先する。

Q6：PBR が 1 倍を割れる状況にあるが、改善に向けた施策があれば教示されたい。

A6：まずは収益力の強化が最重要であると認識している。加えて、赤字事業の黒字化、研究開発の促進、人材育成などを通じて企業価値の向上を図る所存である。

以上